



# 「海とみなと・

## 第2回日中学生フォーラム」参加記

(2017年12月9日、上海・東華大学開催)

外国語学部  
外国語学部  
外国語学部

中国語学科 3年  
中国語学科 3年  
中国語学科 3年  
2017.12.9 (土)

降旗 千夏  
菊地 蘭丸  
村山 朱音

「海とみなと・第2回日中学生フォーラム」のプログラム【表1】

### 「海とみなと・第2回日中学生フォーラム」

(横浜・神戸・上海 中日商埠 学生论坛)

日時：2017年12月9日(土) 14:00～18:00

場所：上海・東華大学延安西路キャンパス教研大樓

#### 報告

(1)「『良友』と音楽楽譜の出版について」

孫安石(神奈川大学 教員)

(2)「上海を駆け抜けた神戸人—ジャーナリスト松本重治」

森平崇文(神戸学院大学 教員)

(3)「神戸・横浜の中華街」

久木田吉樹・谷川愛理・藤本彩(神戸学院大学 メディアコミュニケーション学部 学生)

(4)「神戸と山口組」長井孝一・劉子禎(神戸学院大学メディアコミュニケーション学部 学生)

(5)「震災・女性・芸術—下町芸術祭紹介」片山晏里

(神戸学院大学 メディアコミュニケーション学部 学生)・森平崇文(神戸学院大学 教員)

(6)「神奈川大学中国語学科の小品・スピーチ大会・上海メディア撮影の紹介」

(神奈川大学 中国語学科 学生)

降旗千夏・村山朱音・菊地蘭丸

(7)「外灘の源と『外灘源』、『星外灘』」

張文喆・安萍・袁銘(東華大学大学院)

(8)「若き荷風和上海」

銭曉波(東華大学 教員)

講評 陳祖恩(東華大学 教員)

講評 大里浩秋(神奈川大学 名誉教授)



「海とみなと・第2回日中学生フォーラム」のポスター

2017年12月9日に上海・東華大学延安西路キャンパス教研大樓において「海とみなと」第2回・日中学生フォーラム」が開催され、神奈川大学では中国語学科の教員孫安石の他、降旗千夏、村山朱音、菊地蘭丸(神奈川大学中国語学科3年生)の3名が参加し、日本の神戸学院大学の学生、上海の東華大学の学部生、大学院生との友好交流を深める機会に恵まれた。プログラムの詳細は、上記の【表1】を参考にしたいが、以下、参加した3名により、上海での交流について感じたことをそれぞれ報告することにした(編集者)。

## 大家要看一百年的中国就去上海

(もし、皆さんがここ百年間の中国を知りたければ、上海へ行くと良い)

外国語学部 中国語学科3年 降旗千夏

私が今回上海に訪れたのは2017年で2度目の事でした。今回の目的として「海とみなと」日中学生フォーラムが中国上海市にある東華大学で開催されるので、それに参加してきました。今年2度目の上海訪問で実際に感じたことを2つ挙げていきたいと思います。

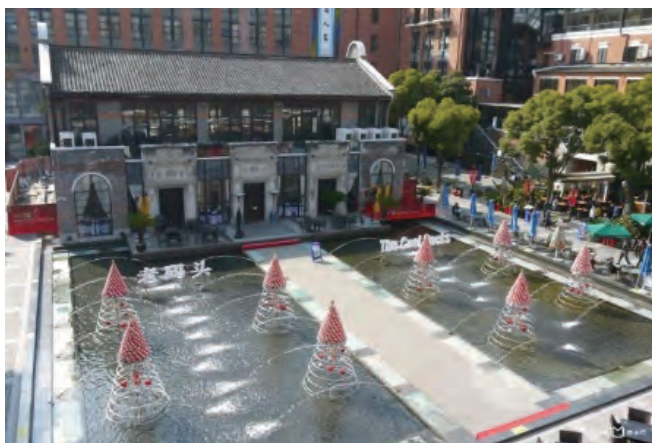
1つ目は学生フォーラムについてです。神奈川大学、神戸学院大学、東華大学の学生と先生方がそれぞれのテーマで発表をし、その中で私は東華大学の学生さんが発表した『外灘の源と「外灘源」「星外灘」に興味を持ちました。今年の9月のゼミ合宿の際に、一度外灘源へ訪れたことがあります。そこは「中国の上海にきた!」というよりもイギリスにきたかのような建物がずらりと並んでおり、とてもお洒落な雰囲気です。印象深かったです。外灘源とは外灘の原点である旧英国領事館のエリアに位置し、上海租界の源だと言われています。外灘と同じく歴史的建造物が残っており、それらをリフォームし、美

術館やレストランなど今でも建物は使われています。例えば、新天地、思南公館、武康庭、老碼頭などに多く存在します。中には7階+1階の建物(哈密大楼)が存在し、8階部分は上海の急速な人口増加に対する策として後から建てられたものです。このように外灘源は租界文化の影響を受けた上海がそのまま残されている場所でした。

発表の中で港に関するものもありました。『老碼頭』も昔の建築物をリフォームしたスポットだと知り、次の日に実際に訪れることにしました。

「碼頭」とは港であり、船着き場のことを指します。『老碼頭』は昔の港の近くにある上海油脂工場でした。今ではリフォームされ、レストランやバー、イベントが開催されることもあります。上海の街の中心地から離れているため、観光客はあまり居なかったのですが、とても静かで異国情緒を感じる場所でした。上海の賑やかさに圧倒された時にはびつたりなスポットです。私が訪れたのは昼間でしたが、バーなどが多くあるため、夜の方がもっと素敵なのかもしれません。

私たち神奈川大学はもとも中国語学科が毎年開催している「小品」を上演するつもりでしたが、ゼミ生の予定が合いませんでした。孫ゼミからは3人しか行けなかったため、急遽、発



「老碼頭」の様子

表内容を変えました。「スピーチコンテスト」については1位を取った菊地くんが本番さながらのスピーチを発表してくれました。次に「小品」についても1位を取ることができた孫ゼミの「赤ずきん」を動画で見せようと思ったが、動画の編集が間に合わなかったため、4年生の先輩たちの赤ずきんと私たち孫ゼミの写真を少し紹介しました。最後は夏に行われた孫ゼミの上海合宿についてです。こちら写真などを見せ



外灘源の街並み

ながら、活動内容を紹介しました。今年のテーマは建築でしたので、建築家ヒューデックの建築物を回りながら、撮影もしました。その内容を今各班で編集をし、DVD化します。今回は残念ながら時間があまりありませんでしたが、またの機会があるのならば、DVDや資料を仕上げてから参加したかったです。

2つ目は上海の変化の速さについてです。前回9月に上海に訪れた目的はゼミ合宿でした。新たに建てられた高層ビル群、スマートフォン一つで支払いを済ませるWechat Pay

(バーコードを読み取るか、QRコードかざすだけで支払いができます)。その他にもレンタル自転車やデリバリー、どれも携帯一つで済みます。中国は凄く速く変化していることを感じました。しかし、これらはまだ外国人が使いこなすには少しハードルが高いです。私も今回上海銀行で口座を開けし、キャッシュレスを実際に体験したのですが、設定などに時間がかかりました。外国人もこの機能を使用できるようになれば、便利が増し、旅行の楽しみの一つになるかもしれないと思いました。

そして、今回の訪問では合宿で宿泊していたホテル付近の小さな店が何店舗も変わっていました。僅か3か月でこんなに変わってしまうことは日本では目にすることができないので新鮮でした。何よりも、上海の変化の速さがこんな身近でも実感できることが1番の衝撃でした。上海には租界時代の建物を利用したリノベーションスポットが多く存在します。上海に訪れた際にこういったスポットに注目してみると、また違った上海が見えてくるのかもしれない。中国の国家主席である習近平はこんなことを言っていました。「(中略)要観一百年の中国去上海」(もし、皆さんがここ百年間の中国を知りたければ、上海へ行くと良い。)まさにその通りだと思いま



神戸学院大学の学生の発表の様子

した。上海では今も近現代の発展の速さを身近に感じるができます。何度も訪れたくなる魅力が上海にはあると私は思いました。

## 上海の日中学生フォーラムに参加して感じたこと

外国語学部 中国語学科3年 菊地 蘭丸

### 成果報告

今回、2017年12月9日に開かれた日中交流シンポジウムを通して思ったのが、この企画

は大成を納める事ができた、だった。名前にある通り、日中との交流や比較をテーマとした今回のシンポジウムでは、日中の学校両方がしっかりと自身の決めたテーマを調べあげた上で発表して下さり、とても興味深い時間を過ごすことができた。

どれも非常に面白く、興味深い内容だったが、その中でも特に聞いていて引き込まれたテーマがあった。『神戸中華街と横浜中華街の関帝廟』についてである。『神戸中華街と横浜中華街の関帝廟』について。（神戸学院大学国際文化交流学部中国語学科の谷川愛理さん発表）発表では、簡単に関帝廟とは何なのかを詳しく説明してくれた。関帝廟とは、関羽が奉られているところであり、義侠心に厚い武将として名高く、また三国志演義の逸話などから、民衆によって様々な伝承や信仰が生まれ、信仰を高め、また後の王朝によって神格化されていったことで有名だという。

また、関羽は商売の神としても崇められており、世界中に華僑が散らばっていったときに、商売が繁盛する様にとその居住区に関帝廟を立てた。そのため世界中の中華街などで関帝廟を見ることが出来るという。

興味を持って調べてみると、なんと日本にあ

る関帝廟は中華街だけではなく、他にも函館市の中華会館や、和歌山県那智勝浦町、京都の福知山市、大阪市、長崎市長福寺、長崎市興福寺、沖縄の那覇市にまであるということに驚かされた。また日本以外にも韓国、ベトナム、マレーシア、台湾とアジアを中心に関帝廟が建てられており、それだけ当時の関帝廟の影響力が強かったことを表しているのだと感じた。

また、その他にも日本と中国の関帝廟の違いなどを細かく解説してくれた。このように中華街で普段目にするがよく分かっていなかった歴史的な背景を理解するためのとてもいい機会であったと思う。

## 一回目の上海

今回のシンポジウムで、上海に来たのは合計で二回目となった。初めて上海に来たのは2017年の9月の頭。それからおよそ三ヶ月ぶりの上海ではあったが、正直そこまで懐かしさという気持ちはなかった。

前回来たときは初の上海ということもあり、かなり興奮した。特に私は以前福建省の廈門大学で過ごしたことがあるのだが、街並みが向こうの都心部とは大きく異なり、同じ中国でもやはりここまで違うのか、と思い知らされた。中

でも百貨店などに入っていると、日本と同じか、下手をしたらそれ以上に綺麗な様子などにとっても驚かされた。

しかしやはり二回目となると、知っているということもあり、前回ほどの衝撃と興奮はあまりなかった。

その代わり、空港に降り立ち電車で人民広場についてみると、見知っていることから来る安心感のようなものが沸いてきた。近所とまではいかないが、それでもよく見知った町を気軽に歩くような気持ちの楽さで散策できたし、その分心に余裕を持って行動することも出来た。

前回は一週間の滞在期間だったが体感時間ではもっと長く、一ヶ月くらいいた気がした。逆に今回は慣れのせいも、もちろん日本よりは長く感じたが、それでも前回ほど長くは感じなかった。

たった一回と二回の差なのに、こんなにも違うのかと正直かなり驚いた。

他にも上海の地下鉄に乗っていて、思ったことがあった。前回は考えてる余裕がなく、ただ乗っているだけだった地下鉄だが、路線図を見ている、非常に多くの路線があることに気が付いた。以前私が留学に行っていた厦門には地下鉄といってもほとんどなく、路線の数もとても少なく、二回目にして上海の交通の便利さに驚

かされた。

また今回の上海では前回同様、建築家ヒューデックが上海において設計した歴史的建造物などを再度取材することもでき、収穫も大きいと感じた。

### 交流会を通して

今回のシンポジウムの参加は、それぞれの発表を聞いて収穫は大きく、私にとってとてもいい刺激になった。だが、その他にもとてもよかったと思えたのは、シンポジウムを終えての食事



上海名物の焼き芋。日本の安納芋に当たりますが、甘くて美味しいです！！

を交えての交流会であった。普段会うことのない神戸の中国語学科の学生と、現地の日本語学科の大学院の学生と交流する機会は、大変有意義なものになった。

初対面であり、特に日本人同士はなかなか何を話していいのか分からなく、お互いに緊張していたこともあり、最初は気まずい空気が充満していて、幾度となく中国人の学生が助け船を出してくれていた。少し盛り上がって、またそのあと沈黙して、を繰り返してしまい、彼らには申し訳ないことをしたと思っている。

とは言えそのあとお酒も入り、お互いに緊張も解れたあとは、気兼ねなく話せるようになり、たり、軽い冗談も言えるようになり、たった一日だけではあったが、大きく仲を深められたと思った。遠く離れた中国の上海で、このように交流の機会を作ってくれた孫先生には大変感謝をしている。

### 上海学生フォーラムに参加して

外国語学部 中国語学科3年 村山 朱音

私が2回目の上海へ行くのはそう時間がかからなかった。9月に孫ゼミでビデオプロジェクトの



降旗（左）と村山（右）の発表

撮影に訪れ、12月の今回は中国の東華大学、日本の神戸大学と神奈川大学の三校で行われる上海学生フォーラムのために訪れることになった。

「海とみなと」がコンセプトであった今回は、各校様々な海と港に関する発表を行っていた。印象に残った発表は、神戸大学による神戸と横浜の中華街をテーマとした発表だ。同じ中華街でも、やはりその場所によって、食べ物の歴史があったりと、よく調べられていた。神戸では、肉まんとは呼ばず豚まんと呼ぶらしい。ま



発表のための打ち合わせです。

た中華街の目印となる門や関帝廟の歴史など、横浜に住んでいてもあまり知らなかったことを知ることが出来る良い機会であった。また今回は取り上げられていなかったが、横浜中華街には神戸の中華街にはない媽祖廟や、みなどみらいという観光スポットにあるからこそ、占いや、横浜大世界、水族館など特有なエンターテインメントも充実している。その様な場所の歴史を調

べるのも面白いかもしれない。

私達の参加は直前に決まった為、発表はギリギリの準備になってしまった。本来ならば、孫ゼミ全員で参加をし、私達が小品で優勝した赤ずきんを演じたかったが、今回は全員での参加ができなかった。

しかし、短い時間での準備でありながら、全員で協力し、菊池さんのスピーチ大会のスピーチを始め、孫先生を狼役に当てる赤ずきんを演じるなど、工夫をした発表をすることができた。

中国語での翻訳が欲しいと開始一時間前に言われ、ひやひやしながらみんなで台詞を考えたのもいい思い出。私個人では、アドリブで伝えたいことが伝えられた事、人前で自信を持つて話すことが出来たので、参加した事はい経験になったと思う。講演後の懇親会では、東華大学と日本の学生だけで食事をする機会があった。講演後すぐだった為なのか、お互いあまり言葉を交わすことがなく、静かな時間が進んでいた。しかし、少しお酒が入るとやはり言葉を発しやすくなり、みんなすぐに打ち解けることが出来た。上海と神戸と横浜のそれぞれの違いを話したり、学生ならではの恋愛事情や、アルバイトの話など、普段聴くことのない驚くような情報もあったりと、とても楽しい時間を過ごす

ことが出来た。

そしてある事にも気がついた、みんな緊張して言葉をあまり発さない中、東華大学の学生が率先して質問を投げかけてくれたり、話題を提示してくれていたのだ。私も積極的に応えるようにしてみたが、やはり互いにどこかぎこちない、日本人はシャイな面があるのだろう。私も自分から話題を投げかけたり、場を盛り上げ話題を出す様な人になりたいと思った。

今回は私にとって二度目の上海であったが、9月に来た時より余裕が出て来たのか、上海の人たちの優しさに触れる事が多かった。

私はホテルの近くに売っている3元の豆乳を買うのが好きで、滞在中は毎日買っていた。3日目の朝、いつも通り豆乳を買いに行くと、豆乳を下さいと言う前に、『豆乳でしょ?』と言われた。移動の時も目が合うと笑顔で笑ってくれた。たった3日間の一瞬買いに行っただけなのに、少しでも覚えてくれていた事に驚いた。

違う店でも、9月に訪れた時に、餅(bing)を友達と買いに行った時は、適当に振る舞われていたが、今回自分で少し勇気を出して買ってみたら、『そのくらいの中国語が出来たら十分だよ』と言ってくれた。

面白かったのは、ある日の帰り道、中国のタ



タピオカは絶対お勧めです！！

クシーに乗り、夜遅くへホテルへ着いた時の事。  
『メーター上がったばかりだからこれは返してあげるよ』と運転手さんが上がったメーターの文のお金を返してくれた。9月へ訪れたときは、夜遅くにタクシーに乗って、距離が短いからと遠回りされたこともあったし、メーターが直前で上がったも返してくれる事なんてなかった。しかしなぜか今回はこの他にも、手前でメーターを止めて、ホテルの入り口まで乗せて行ってくれたりする運転手さんに会ったりと、運が良かったのかとも考えるが、本当に人の優しさに触れることが多かった。

ギリギリの参加の上海学生フォーラムであったが、今回参加してみて、各校の発表を通し、新しく気付かされた事や、自分の発表の経験を積むことが出来て参加してよかった。また上海という、私にはまだ慣れない地で、人の優しさにも触れることが出来るいいチャンスになったと思う。また早く訪れたい。